

ムソルグスキー作曲 歌劇「ボリス・ゴドゥノフ」

190408

幕	場	場面	内容	分	主な歌う登場人物				見どころ・聴きどころ
序幕 25分	1	皇帝就任を拒絶するボリス	1598年、モスクワのノヴォデヴィッチ女子修道院の中庭。亡きイヴァン雷帝の三男皇帝フォードル1世の死亡により摂政であったボリス・ゴドゥノフは、皇帝不在の心配により民衆による皇帝即位の嘆願が高まるのを期し、修道院内のスモレンスキー大聖堂に隠棲していた。民衆は、ボリスに帝位につくよう連呼する。だが書記によれば、ボリスは、フォードル I の次代皇帝就任を拒絶しているという。	15				書記 警官	
	2	戴冠式を終えたボリス	ボリスは、皇帝就任を許諾し、モスクワのクレムリン内のウスペンスキー大聖堂で、戴冠式に臨んだ。シュイスキー侯爵が皇帝就任を先導するが、ボリスは、フォードル1世殺害した罪の意識にさいなまれている。一行は、過去の皇帝への挨拶を兼ねて、アルハンゲルスキー大聖堂に向かっている。	10		ボリス	シュイスキー		戴冠式の場面
第1幕 40分	1	ロシア年代記を記述する老僧ピーメン	老僧ピーメンが、モスクワのチェドヴィ修道院でイヴァン雷帝によるカザン攻略までのロシア年代記を記し、ボリスの指示で1591年のウクチでのドミトリー暗殺と、皇位奪取を記述して年代記が終わる、と独白する。傍らに寝ていた亡きドミトリーと同年齢の修道僧のグリゴリーは、ある計略を思いつく。ピーメンは、グレゴリーに年代記の執筆を引き継ぐように頼まれる。	20	グレゴリー	ピーメン			
	2	逃走するグレゴリー	修道院を脱走したグリゴリーは、国境の宿にたどり着き、他にも神父を装う浮浪者ヴァルラムとミサイルが宿にいた。宿の女将は、グリゴリーの逮捕状を携えた役人が現れる。文盲の役人は、グリゴリー自身に書面を読み上げさせる。グリゴリーは人相書きの部分を浮浪者ヴァルラムに似せて読み上げた。だが企みを見破られ、グリゴリーは窓を破って逃亡する。	20	グレゴリー			宿の女将 ・ヴァルラム ・ミサイル ・文盲役人	
第2幕 30分	1	錯乱するボリス	皇帝ボリス・ゴドゥノフの子、王女クセニヤと王子フォードルが宮殿の居間にいた。姉クセニヤが亡くなった婚約者を偲んで泣くので、乳母と弟フォードルが楽しい歌で慰める。ボリス・ゴドゥノフが現れて娘を慰め、王国について地図で勉強するフォードルに最高権力を得た今の自分の気持ちを話す。しかし、皇帝は娘の婚約者の死、貴族や民衆の反乱、飢饉に加え、ドミトリー殺害の罪意識にさいなまれていた。いっこうに心の休まることのないボリスであった。	16			ボリス	・乳母 ・クセニヤ ・フォードル	ボリスのモノローグ
	2		ボリスは、シュイスキー公爵から、リトアニアにドミトリーと名乗る若者が現れ、ポーランドの王族が彼を担いでリトアニア国境に攻め込んで来たたと報告を受ける。ボリスは、シュイスキー公爵に、ドミトリーの殺害場面を聞くうちに恐怖に駆られ、鳴り出した大時計の音にさえ怯える。精神錯乱状態になったボリス・ゴドゥノフは、脆いて神に許しを願う。	14			ボリス シュイスキー		ボリスの苦悩
第3幕 35分	1	ポーランドとカトリックの支援を受けたグレゴリー	マリーナ・ムニシエクの部屋。ポーランド貴族の娘マリーナは、彼が偽物のドミトリーだと知りながらも、彼と結婚してロシア皇后になることを夢見ていた。そこにロシアのカトリック化を企んでいるイエズス会士ランゴーン神父が現れ、グレゴリーを正教徒からカトリックに改宗させるようマリーナに迫る。ついに彼女も同意する。	15					ランゴーン神父 ・マリーナ
	2		ランゴーン神父がグレゴリーに近づき、マリーナと結婚するつもりならカトリックに改宗せねばならないと進言する。そこへマリーナと貴族たちがやって来たので、グレゴリーは隠れる。マリーナは、グレゴリーにロシア皇帝になる気があるのか否かと迫る。恋に酔って目的を忘れていたグレゴリーは、マリーナと結ばれるためにもボリスを打ち負かそうと、その決心を取り戻す。そして二人は固く抱擁する。	20	グレゴリー				ランゴーン神父 ・マリーナ
第4幕 55分	1	白痴の毒舌	モスクワ赤の広場では、人民がポーランドの支援を受けたグレゴリー（偽ドミトリー）進軍の噂をする。白痴（苦行僧）が、ボリスに「私から銅貨を奪った子どもたちを殺すよう命じてくれ、お前が幼い皇子を殺したように」と言うので、シュイスキー公爵が、白痴を逮捕しようとするが、ボリスは押し止めた。白痴は、ボリスに「幼児殺しのヘロデ王の為には祈れない、ロシアの民よ、暗い未来に泣け。」と告げる。	13		白痴	ボリス シュイスキー		
	2	ボリスの死	シュイスキー公爵が、皇帝の乱心の報を告げた。幻影にとりつかれた皇帝ボリス・ゴドゥノフが現れる。策略を抱くシュイスキー公爵は皇帝を落ちつかせ、老僧ピーメンを呼ぶ。ピーメンがドミトリー皇子の墓の前で起きた夢の話をする、ボリスは罪の意識から再び錯乱する。葬いの鐘の音が響きわたり、神と国民にゆるしを願う錯乱の中で息を引き取る。	27		ピーメン	ボリス シュイスキー	書記	ボリスの死
	3	進軍するドミトリー・白痴の予告	農民や暴徒に捕らえられた皇帝派の貴族が、なぶりものにされている。浮浪者ヴァルラムが現れて、群衆に加わる。ポーランド人のイエズス会士たちが通りかかり、新皇帝にドミトリーを迎えようと扇動する。群衆は皇帝派の貴族たちを縛って木に吊るそうとした時、兵を率いる偽のドミトリーが通りかかる。彼はロシア王と名乗り、民衆に呼びかけクレムリンをめざそうとロシアへと進軍して行く。そこには白痴がただ一人残り再び巡り来るロシアの暗黒時代を、予告する。	15	グレゴリー	白痴		貴族	

(注)紙の音がするので、開幕中は、このA4紙をしまってください。